

備前市施策評価シート

施策名 (小項目)	歴史文化の活用と伝統文化の継承	コード	作成者	役職	生涯学習課
		02-03-10		氏名	大道健一
			電話	64-1841	
			このシート作成に要した時間	1.5 時間	

この施策の アピール ポイント	本市には、日本を代表する焼物「備前焼」や近世の教育資産「閑谷学校」、また多くの文化財があり、後世に引き継ぐとともに広く活用していく。
-----------------------	--------------------------------------------------------------------

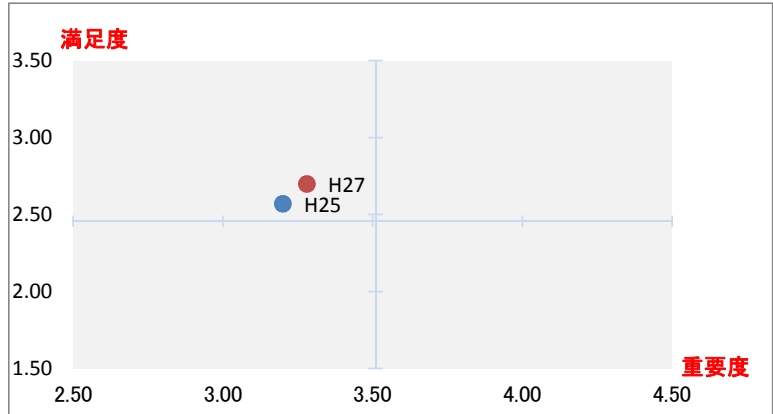
この施策の 平成26年度の 施政方針	「備前市歴史文化基本構想」に基づき、地域の資産を活かし、備前市らしいまちづくりの準備を進める。地域を代表する資源である備前焼については、市指定無形文化財の制度活用を検討するなど、一層の振興を図り、窯業地備前としての情報発信を行う。
--------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<備前市総合計画の内容から記載する>

① 政策の体系	基本構想 (大項目)	自己実現施策「生涯学習、歴史、文化」
	基本計画 (中項目)	豊かな自然、歴史、文化の中で心豊かに暮らせるまち
② 対象と目的 (誰のために、何のために)	旧閑谷学校や備前焼をはじめとするびぜんの歴史や文化財に関心のある人に対し、積極的に公開活用し、地域文化への理解をはかる。	
③ 現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	備前市内には、旧閑谷学校、備前焼、瀬戸内海からの海産物、山々の自然環境など、豊かな歴史、文化、自然があり、それらは備前焼などの窯業をはじめ、現代の生活の中で脈々と息づいています。これらの地域文化資源は、まちを構成する重要な要素となっていることから、大切に守りながら後世の人につないでいくとともに、それらの価値を十分に理解し、まちづくりに生かしていく取り組みが必要です。また、市内各地域には古くから伝わる祭りや芸能が数多く残っており、地域の人々の手で保存・継承していくことが望まれています。	
④ 施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> 地域文化資源の保存と活用 情報発信 伝統文化の保存 	

⑤ 市民意識調査による施策の重要度・満足度

調査年度		H25	H27
重要度 (%)		3.20	3.28
満足度 (%)		2.57	2.70



《グラフにおける領域の説明》



調査結果に対するコメント、市民の反応等	備前焼、閑谷学校をはじめ多くの歴史的な資産があるのに、情報発信の方法など生かされていない。
調査対象でない施策は、市民の反応等	

⑥ 施策成果指標 (基本目標・基本施策・施策意図から設定)

施策に対する成果指標名	単位	過年度実績			評価年度	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値	
		H24	H25	H26			H27	H28
成果指標 文化施設の年間入館者数	目標	人	8,000	8,000	8,000	市で管理運営する歴史文化施設(歴史民俗資料館・加子浦歴史文化館・埋蔵文化センター)への入館者数	H27	8,000
	実績	人	6,408	5,813	6,215		H28	10,000
	達成率	%	80.1	72.7	77.7		H34	10,000
	ベンチマーク							
参考指標① 指定文化財等対応件数	目標	件	200	300	300	地域内文化財や文化遺産の調査・管理対応件数	H27	300
	実績	件	180	165	160		H28	300
	達成率	%	90.0	55.0	53.3		H34	300
	ベンチマーク							
参考指標②	目標	人					H27	
	実績	人					H28	
	達成率	%					H34	
	ベンチマーク							
参考指標③	目標	件					H27	
	実績	件					H28	
	達成率	%					H34	
	ベンチマーク							

⑦ 目標達成に必要な新規事業 (裏面 施策構成事務事業以外の事業) 及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果

⑧ 施策の評価

項目	評価	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い	
		判断理由 (なぜ、そのランクと評価したのか)	
1 <成果指標の妥当性> 施策の目的・成果を表現しているか?	3	文化施設への入場者数、リピーター数、歴史文化の関する問合せが多くなれば、それだけ歴史・文化に触れる機会の創出が図られた、あるいは関心を持った人が多くなったといえる。	
2 <事業構成の適当性> 手段は最適か?	3	地域文化資源の保存と活用、伝統文化の保存のため、積極的な情報発信を行うことは必要である。	
3 <施策の有効性> 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは?	3	少子高齢化と人口減少が進む中、施設への入場者数は減少傾向にあるが、市の歴史文化を学び自分の住む地域に愛着をもってもらうには、備前の歴史文化に触れる機会を創出のため魅力ある企画展等を定期的に開催していく必要がある。	
進行年度 (H27年度) の取組内容 (課題解決状況)		文化施設を中心に地域文化資源の情報発信、文化財係を中心に指定文化財の保護等を行ってきており、一定の成果は出ている。今後も各施設で役割分担の検討を行いながら、さまざまな事業に取り組んでいく。	
翌年度 (H28年度) の取組目標		備前市歴史文化基本構想に基づき地域文化資源を総合的に活用するためのメニューを展開していく。備前焼の歴史については小規模発掘やフォーラム開催により調査研究や情報発信が進んでいる。備前陶器窯跡については、整備委員会の指導を受け、関係機関と協議しながら伊部西大窯跡の指定地の拡大を検討する。また歴史文化基本構想の見直しも含め、地域文化資源が100年後の備前市民に伝えることができるよう、合理的かつ総合的な考え方で事業を進めていきます。	
二次評価者コメント		秘書広報課所管となりましたが、今年日本遺産となった閑谷学校を広くPRするとともに、備前焼の日本遺産化に向けて協力推進していきましょう。また、歴史文化構想に基づいたまちづくり、文化財の活用を考えてください。	基本施策への 貢献度 3 中立
役職	教育部長		
氏名	谷本 隆二		

施策構成事務事業の評価

施策を構成する 事務事業	細事業	事業 分類	事業費等（単位：千円，人）										施策への 貢献度
			平成24年度			平成25年度			平成26年度			平成27年度	
			直接 事業費	人件費	人工数	直接 事業費	人件費	人工数	直接 事業費	人件費	人工数	当初予算	
01	文化財保護管理運営事業	補助	3,337	8,308	0.99	14,364	9,916	1.10	32,759	10,610	1.29	17,084	☆☆☆☆☆
	備前焼総合調査史跡整備事業	補助	5,735	879	0.10								* H24終了
	埋蔵文化財管理運営事業	単市	4,479	3,154	0.35								* H24終了
02	埋蔵文化財管理センター運営事業	単市	4,779	3,154	0.35	6,747	2,380	0.25	9,041	1,329	0.14	11,806	☆☆☆
03	旧閑谷学校世界遺産登録推進委員会事務事業	単市				1,150	4,021	0.41	950	3,355	0.35	500	☆☆☆☆
	旧閑谷学校世界遺産登録推進事業	単市				1,065	2,964	0.29	2,077	4,451	0.44	1,860	☆☆☆☆
	教育遺産世界遺産登録推進協議会事務事業	単市										765	☆☆☆☆
04	歴史民俗資料館管理運営事業	単市	7,470	1,412	0.16	8,738	1,743	0.21	9,184	1,750	0.20	11,103	☆☆☆☆
05	加子浦歴史文化館運営事業	単市	5,123	6,323	0.80	5,740	8,043	1.01	5,433	8,141	1.01	5,086	☆☆
06	吉永美術館管理運営事業	単市	618	106	0.01	533	431	0.05	566	228	0.03	611	☆
この施策に費やした資源（単位：千円，人）			平成24年度			平成25年度			平成26年度			平成27年度	
			31,541	23,336	2.76	38,337	29,498	3.32	60,010	29,864	3.46	48,815	

備前市事務事業評価シート

(平成26年度事業)

事業の概要		事業開始年度	平成25年	根拠法令・例規等	備前市埋蔵文化財管理センター設置条例
総合計画	大項目	基本目標	02	自己実現政策「生涯学習、歴史、文化」	問 担当課(室) 生涯学習課 合 職・氏名 係長 石井啓 電 話 0869-64-1841 このシート作成に要した時間 2.5 時間
	中項目	基本施策	03	豊かな自然、歴史、文化の中で心豊かになるまち	
	小項目	施策	10	歴史文化の活用と伝統文化の継承	
事務事業名		02 埋蔵文化財センター管理運営事業			

事業の目的		Plan
対象(誰・何に対して)	備前市の歴史・文化などに興味のある人すべて。	
目的(何のために)	発掘調査等により出土した文化財の整理・保管を行う。合わせて調査研究も行い、その成果の活用をはかる。	
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	地域遺跡に根差した企画展、ワークショップを展開し、地域の子供たちが気軽に来館できる資料館にしたい。	

事業の実績			Do
目的を達成するために実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度
	埋蔵文化財センター管理運営事業	特集展 おかえり「陶BaAaa---!!」～よりすぐり動物展～、フォーラム関連企画展「備前焼の大甕」～復元から見える中世の製作技法、歴史関連アート『SEI∞備前遊覧』—備前岡山の歴史 風土 縁する人々に学び、観る—、フォーラム関連企画展「渡る大甕～備前国から京へ 京都から備前へ～」などの企画展、「かわいい陶BaAaa---!!」を備前焼で作ろう※地域の特性を活かした史跡総合活用支援推進事業、リゾナリキョウカ「壺壺」を備前焼で作ろう※地域の特性を活かした史跡総合活用支援推進事業、彫刻家とつこう!～江戸時代の人々も見た動物たち～、など子ども向けワークショップなどを開催し、備前市の歴史・文化を広く紹介した。	◎

決算額	事業費等		単位	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度実績	
	事業費	直接事業費	千円	4,779	6,747	9,041	
		必要人員費	人件費	0.35人	3,154	0.25人	2,380
		事業費	計	7,933	9,127	10,379	
	財源	国庫支出金	千円	263	325	3,029	
		受益者負担		54			
		繰入金					
		市債					
		その他(書籍・冊子売払収入、土地使料)		62		128	
		一般財源		7,616	8,740	7,222	
	受益者負担比率	%	0.7%	-	-		

結果指標	結果指標名		単位	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度実績
			説明	年間入館者数		
	結果指標量		人	894	1,312	1,204
	対前年比		%		146.8%	91.8%
	活動コスト		円	7,933,000	9,127,000	10,370,000
	単位当たりコスト		円	8,874	6,957	8,613

事業の成果		年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度目標値
成果指標名	年間入館者数	目標値(A)	1,000	1,000	1,400	1,300
		実績値(B)	894	1,312	1,204	到達目標値
		達成率(B/A)	89.40%	131.20%	86.00%	1,500
成果指標設定の考え方・式や説明						
地域の方々が気楽に来館し、郷土の歴史や遺跡などの文化にふれ、地域の魅力を再確認するため年間入館者数を設定した。						

事務事業の評価		該当する項目を□から■へ < ■ ← 「コピー」して「貼り付け」してください >		Check
妥当性の評価	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input checked="" type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い	妥当性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い	
	市民ニーズ	<input type="checkbox"/> 単当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託合)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い	
有効性の評価	目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の到達目標値は達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない	有効性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い	
	市民参画度	<input type="checkbox"/> 法定事務・内部管理事務 であり成果は求めにくい <input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業にはNP0、ボランティア団体等が参画している	C	

進行年度(H27年度)の改革改善内容							
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					
説明	今まで以上に地域の遺跡や埋蔵文化財に根差した企画展、やきものに親しむワークショップを積極的に展開し、地域の子供たちが気軽に来館できるセンターを目指している。						

総合評価		総合評価
おかえり「陶BaAaa---!!」～よりすぐり動物展～、フォーラム関連企画展「備前焼の大甕」～復元から見える中世の製作技法など埋蔵文化財ややきものに親しめる企画展を開催、子供向けのワークショップも実施したが、全体の入館者数は昨年度より減となっている。「備前市の歴史」に関して情報発信はできているが、管理運営のコスト削減は限界である。		B

平成28年度の方向性・取組目標							
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					
取組目標	市内に複数ある文化施設の役割を明確化する。また、国庫補助事業等も活用し、センターの安定的運営をはかる。						

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標がある成果指標に留意しな

備前市事務事業評価シート

事業の概要		事業開始年度	平成14年度から	根拠法令・例規等	世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約（世界遺産条約）、旧閑谷学校世界遺産登録検討専門委員規則
総合計画	大項目 基本構想	02	自己実現政策「生涯学習、歴史、文化」	問 担当課（室）	秘書広報課
	中項目 基本計画	03	豊かな自然、歴史、文化の中で心豊かになるまち	合 職・氏名	参事 横山裕昭
	小項目 施策	10	歴史文化の活用と伝統文化の継承	先 電 話	0869-64-1800
事務事業名		03	旧閑谷学校世界遺産登録推進事業	このシート作成に要した時間	
				2.0 時間	

事業の目的		Plan
対象（誰・何に対して）	旧閑谷学校や世界遺産に興味関心がある人。	
目的（何のために）	旧閑谷学校の建造物とその創学の精神を受け継ぎ、未来の世代へ継承するために世界遺産への登録を目指す。	
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	旧閑谷学校世界遺産登録推進委員会が他の民間団体と積極的に協力し、応援活動を盛り上げる。	

事業の実績		Do	
目的を達成するために実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度
	旧閑谷学校世界遺産登録推進委員会事務事業	旧閑谷学校の世界遺産登録推進へ向け、シンポジウムや講座などを開催し、広報活動に務める。	○
	旧閑谷学校世界遺産登録推進事務事業	専門委員の会議を開催し、提案書案を作成する。関係諸機関と調整を行う。	◎

事業費等		単位	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度実績
事業費	事業費	千円	1,711	2,215	3,027
	必要人員	人	0.66	0.72	0.79
	必要人員費	千円	5,431	6,984	7,806
決算額	事業費	千円	7,142	9,199	10,833
	国 庫 支 出 金				
	受 益 者 負 担				
	繰 入 金				
	市 債				
その他（ ）					
一 般 財 源		7,142	9,199	10,833	
受 益 者 負 担 比 率	%	-	-	-	

結果指標		単位	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度実績
提案書作成	結果指標	量	5	12	4
対前年比	%		-	240.0%	33.3%
活動コスト	円		0	0	0
単当たりコスト	円		0	0	0

事業の意図する成果となる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の成果		年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度目標値
世界遺産フォーラム（シンポジウム）参加者数	成果指標名	目標値（A）	200	200	200	200
		実績値（B）	200	110	120	到達目標値
		達成率（B/A）	100.00%	55.00%	60.00%	200
成果指標設定の考え方・式や説明						
世界遺産について理解を深めてもらい、賛同していただける方を増やす必要があるため、成果指標にした。						

事務事業の評価		該当する項目を□から■へ < ■ ← 「コピー」して「貼り付け」してください >	Check
妥当性の評価	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input checked="" type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である	妥当性評価 A B C D E 高や普や低い 通やい 高 低 い
	市民ニーズ	<input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い	C
効率性の評価	コスト	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価 A B C D E 高や普や低い 通やい 高 低 い
	目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の到達目標値は達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input type="checkbox"/> 法定事務・内部管理事務 であり成果は求めにくい <input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業にはNP0、ボランティア団体等が参画している	有効性評価 A B C D E 高や普や低い 通やい 高 低 い
市民参画度			B

事業の目的やその数値目標にある成果指標に留意しな

進行年度（H27年度）の改革改善内容															
状況	<table border="1"> <tr> <th>拡充</th> <th>現状継続</th> <th>見直し</th> <th>縮小</th> <th>整理統合</th> <th>休止</th> <th>廃止・完了</th> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了	○						
拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了									
○															
説明	平成26年度に旧閑谷学校の国内暫定一覽表への記載を目指すため、国の理解が得られるよう、報告書「学びの原郷 閑谷学校」を作成し、文化庁に提出した。同時に「日本遺産魅力発信推進事業」いわゆる「日本遺産」認定申請を茨城県水戸市・栃木県足利市・大分県日田市とシリアル型で行い、27年4月に「近世の教育遺産群一学ふ心・礼節の本源」として認定を受けた。これを契機に世界遺産登録推進についても4市で連携して推進していくこととした。														

総合評価		総合評価
「日本遺産」と「世界遺産」は、日本独自の観光活用型のストーリーを認定する日本遺産と不動産の保護が目的の世界遺産登録では、目的が違っており、日本遺産認定を基に旧閑谷学校の認知度が高まることが期待できる。		
また、27年度から日本遺産の連携とともに、茨城県水戸市・栃木県足利市・大分県日田市で構成された教育遺産世界遺産登録推進協議会に正式に加盟し、世界遺産登録推進を戦略的に進める。これには財政的・人的負担増は伴うが、日本遺産認定による地域活性化につながる事業や世界遺産登録推進について、それぞれの調査・研究成果の精査や事業協力することにより、今まで以上に効果的・戦略的な推進を図ることができる。		
		A B C D E 高や普や低い 通やい 高 低 い
		B

平成28年度の方向性・取組目標															
方向性	<table border="1"> <tr> <th>拡充</th> <th>現状継続</th> <th>見直し</th> <th>縮小</th> <th>整理統合</th> <th>休止</th> <th>廃止・完了</th> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了	○						
拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了									
○															
取組目標	旧閑谷学校を含むストーリーが日本遺産認定されたことによる事業展開による地域の機運を一層高めながら、茨城県水戸市・栃木県足利市・大分県日田市及び備前市で構成する教育遺産世界遺産登録推進協議会より世界遺産登録の暫定リスト入りの提案書作成を作成し、世界遺産登録の日本の暫定リスト入りを文化庁へ要望していく。また、備前市としては平成27年度に実現しなかった「備前焼」等に関する日本遺産認定への取り組みも強化していく。														

Action

備前市事務事業評価シート

(平成26年度事業)

事業の概要		平成3年		根拠法令・例規等	備前市歴史民俗資料館設置条例
事業開始年度				問	担当課(室)
総合計画	大項目	基本目標	02	自己実現政策「生涯学習、歴史、文化」	生涯学習課
計画	中項目	基本施策	03	豊かな自然、歴史、文化の中で心豊かになるまち	職・氏名
	小項目	施策	10	歴史文化の活用と伝統文化の継承	係長 石井啓
事務事業名	04	歴史民俗資料館管理運営事業			電話
					このシート作成に要した時間
					2.5 時間

事業の目的		Plan
対象(誰・何に対して)	備前市の歴史・文化などに興味のある人すべて。	
目的(何のために)	郷土に関する資料の収集、調査を行い、展示などを通して地域の文化や歴史についての理解をふかめる。	
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	地域に根差した企画展、ワークショップを展開し、地域の子供たちが気軽に来館できる資料館にしたい。	

事業の実績		Do	
目的を達成するために実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度
	歴史民俗資料館管理運営事業	「ぎょうさん ぼっけえ でっけえ 古地図展」、「アートする池田家」や「すごいよ！土型さんーやきもの型の美ー」などの企画展、「でっけえ古地図の大調査」、「ナゾ解かナイト☆ミュージアム2」など子ども向けワークショップなどを開催し、備前市の歴史・文化を広く紹介した。	◎

事業費等		単位	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度実績
決算額	事業費	千円	7,470	8,738	9,184
	必要人員	人	0.16人	0.21人	0.20人
	事業費	千円	1,412	1,743	1,750
	国県支出金	千円	4,305		628
	受益者負担	千円			
繰入金	千円				
市の借入金	千円				
その他(書籍・冊子印刷)	千円	10	45	86	
一般財源	千円	8,872	10,436	10,220	
受益者負担比率	%	-	-	-	

結果指標	結果指標名	単位	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度実績
	年間入館者数	人	2,765	2,565	2,427
	対前年	%	92.8%	94.6%	
	活動コスト	円	8,882,000	10,481,000	10,934,000
	単位当たりコスト	円	3,212	4,086	4,505

事業の成果		平成26年度事業				
年間入館者数	成果指標名	年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度目標値
	目標値(A)		3,000	3,000	3,000	3,000
	実績値(B)		2,765	2,565	2,427	到達目標値
		達成率(B/A)	92.17%	85.50%	80.90%	3,000
成果指標設定の考え方・式や説明						
地域の方々が気楽に来館し、郷土の歴史や文化にふれ、地域の魅力を再確認するため年間入館者数を設定した。						

事務事業の評価		該当する項目を□から■へ < ■ ← □ - 「コピー」して「貼り付け」してください >		Check
妥当性の評価	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある	<input type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い	妥当性評価 ABCDE 高や普通や低い や通や低い 高い 低い B
	市民ニーズ	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託含)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている		効率性評価 ABCDE 高や普通や低い や通や低い 高い 低い C
有効性の評価	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の到達目標値は達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input checked="" type="checkbox"/> 法定事務・内部管理事務であり成果は求めにくい <input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している		有効性評価 ABCDE 高や普通や低い や通や低い 高い 低い C	

進行年度(H27年度)の改革改善内容							
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					
説明	学芸員2名の体制で、今まで以上に地域に根差した企画展、ワークショップを積極的に展開し、地域の子供たちが気軽に来館できる資料館を目指している。						

総合評価		総合評価
「ぎょうさん ぼっけえ でっけえ 古地図展」、「アートする池田家」や「すごいよ！土型さんーやきもの型の美ー」などの企画展、「でっけえ古地図の大調査」、「ナゾ解かナイト☆ミュージアム2」など子供も楽しめる企画展や子供向けのワークショップを開催したが、全体の入館者数は減となっている。「備前市の歴史・文化」に関して情報発信はできているが、管理運営のコスト削減は限界である。		総合評価 ABCDE 高や普通や低い や通や低い 高い 低い B

平成28年度の方向性・取組目標							
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
			○				
取組目標	25年度に策定された備前市歴史文化基本構想に基づき、市内に複数ある文化施設の役割分担を明確化し、施設を運営していく。						

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

がであるの成果目的や指標その数値に留意しな

